

## わたしたちに出来ること

3・11からもう3年あまりの歳月が過ぎた。  
時の流れは速いけれど、記憶の中に永くとどめ続けることが、  
わたしたちに出来ることであり、なくてはならないこと。  
3・11を忘れないために、小さな灯を点し続けていきたい。

## わたしがふくしまに暮らすということ

吉田麻里香

ふくしまで暮らす、ということ。

わたしが、ふくしまで暮らすということ。

わたしにとって、ふくしまで暮らすということ。

たとえば、朝起きて窓を開けて深呼吸をする習慣がなくなったこと。

たとえば、洗濯物を外に干せないということ。

たとえば、庭の畑で採れた野菜を捨てるということ。

たとえば、私が何も言わなくても線量計とマスクを身につけて外出する娘の姿に胸がチクッと痛むということ。

たとえば、この真っ白な雪に触れられないということ。

たとえば、「がんばろう福島」のスローガンに時々微かな苛立ちを感じるということ。

たとえば、いつのまにか呼吸が浅くなっているということ。

たとえば、福島に住んでいることを誰かに話すとき、「でもうちはまだ線量が低いから…」ときかれてもいないのに説明してしまうこと。

たとえば、ふくしまには福島とFUKUSHIMAがある、と感ずること。

たとえば、ふくしまに「とどまれ」と言われると「人の命をなんだと思ってるんだ!」と言いたくなり、「避難しろ」と言われると「そう簡単に言うな!こっちにも事情があるんだ!」と言いたくなってしまうこと。

たとえば、6歳の娘が将来結婚できるかが今から心配になってしまうこと。

たとえば、ふくしまに住んでいるという選択の責任を放棄したくなること。

たとえば、わたしたちの日常が誰かの犠牲と努力によって保たれている薄氷のような「安全」の上に成り立っているという当たり前の現実を、毎朝腹の底から理解するということ。

たとえば、明日にはこの家を遠く離れるかもしれない、と毎晩考えること。

たとえば、それでも明日もこの家で暮らせますように、と毎晩祈ること。  
とにかく、娘の健康と幸せを祈ること。

あの黒煙が脳裏から離れないこと。

それでも、毎日をそれなりに楽しく暮らしていることを、誰かにわかってほしいということ。

毎日、怒ること。

毎日、祈ること。

(中日新聞より)

平成26年(2014) 6月

No.60

発行/特定非営利活動法人 りんりん  
半田市岩滑高山町5丁目4番地  
TEL(0569)21-3646 FAX(0569)32-6623  
http://rinrin.or.jp E-mail npo@rinrin.or.jp

## ありがとうございます

皆さまのあたたかいご支援が  
りんりんを支えています。

## ご寄付ありがとうございます

高山 利光 水野 陽子(敬称略)

## 平成26年度賛助会員

安藤 幸子	石川 雅子	石川 君子	石川 里恵
市川 幸夫	市野 健三	鬼崎みや子	加古 淳子
川井 滋子	木村 静子	清田 友子	鞍田まちこ
小林 叡子	近藤 直美	佐藤千栄子	榊原 綾子
榊原 幸宏	榊原 初美	榊原 裕子	榊原 和子
沢田伊佐男	須賀 幸子	杉江 義明	鈴木美早子
竹内ふみえ	中川 桂子	中川八栄子	中野 貞子
新美 信恵	新美 巴	蛭川 英子	福島扶美亜
福田 悦子	堀 松美	牧内 信子	三輪りな子
村上眞喜子	森 邦弘	休波 京子	山本 亮子
吉川 智子	吉田 房子	吉田二三子	(敬称略)

## ～ ヘルパー研修会 ～

4月	異常の早期発見と気づき .....	43名
5月	大人のための健康講座(体操) .....	38名
〃	倫理について .....	34名

## 多世代交流事業

	4月	5月
絵 手 紙	8名	10名
さをり織り	23名	39名
生き生きサロン	174名	134名
小物づくり	9名	—



(延べ利用人数)

## 会員数

協力会員	利用会員	賛助会員	合計
103名	46名	42名	191名

(H26/5月末現在)

特定非営利活動法人 りんりん



## りんりん誕生から 21年目を迎えて

今年5月で満20周年を迎えることができました。平成6年に7人の女性が「困った時はおたがいさま」のたすけあいの気持ちで始めたりんりんです。この20年の間には本当にたくさんの方々を支えていただいたこと、そしてこれまでに頂いた数々の“ご縁”に改めて感謝申し上げます。

家庭や地域を取り巻く環境が変化しつつある今日、愛知県でも2025年には県民の26.4%が65才以上になり、子ども(0～14才)の数は12.3%、また全世帯の1/3は単身世帯になるのではないかと予測されています。家族構成や生活スタイルはこれからも変化して、今までの想像を超えた時代がくるというのですが、知多半島地域では「ち

た型地域包括ケアのまちづくり」地域の住民が主体的に支え合う仕組みづくりをみんなで考え始めています。行政・企業・教育・NPO・地縁団体と立場は違っても、誰もが家に帰れば地



域住民の一人であり、「あたりまえの暮らし」に視点をおけば、一緒にその仕組を創っていけると考えています。

“ひとりの人も支えることができなければ何も変わらない” ひとつひとつ丁寧に対応していくことがりんりんの活動の原点です。21年目の今、時代に合った“ささえあいのしくみ”を創っていく一員であること、またこれからは「気づいたこと」を提案し「まちを変えるきっかけづくり」がりんりんの役割だと思います。

「0才から100才まで、みんなが安心して暮らせるまちづくり」をみなさんと共にすすめていけるりんりんでありたいです。

代表 下村 裕子

# りんりん総会

5月25日りんりん総会が開かれました。会場の事務所1階ホールには部屋いっぱい78名の出席者がいました。来賓のあいさつでは「地域の役に立ってください」「皆さんの持っている生き生きした雰囲気、りんりんのさらなる発展を」「岩滑区は防災・防犯に力を入れている。りんりんと協力して若い人が参加できる体制を作りたい。」などのお言葉をいただきました。

総会後は茶話会です。いろんな事業にかかわっている人たちが一堂に会し、それぞれの立場からの話に耳を傾けました。

「ただ一人の人を助けることからりんりんは始まったがこんなに発展してうれしい」「始めた当時お昼を食べる間もない時があった。仲間からたまごかけご飯をご馳走してもらった、そのおいしさが忘れられない。」「ヘルパーさんが元気ハツラツ。その姿をみるのはうれしい」「高齢化がますます進む。さらに協力し合いましょう」「介護の仕事をしていて癌の妹を家で看取ることができた。役にたった。」「障がい部門を担当している。奥が深くてやりがいがある。」「“親子deランチ”をきっかけにりんごクラブで働くようになった。自分の子供も入って夢がかなった。」「りんごクラブは癒されるし楽しい仕事。」「引退してもいい年だけど仕事をする事で元気にしていきたい。」「与えられた仕事を丁寧に。今一番充実感がある。」「プチりんごの温かいサポートで自分の子育てが助けられた。これからも今のまま続けていきたい」「やめようかな・・と思ってもまだ役に立つのかなという気がしてくるのでやるだけやる。」

いろんなお話ができました。初めはみなさん遠慮がちでしたが、だんだん活発にお話しされるようになり、「これも話したい、あれも話したい」という雰囲気に変わっていきました。仕事をしている一人ひとりが自分の仕事を楽しんでいる。仲間に支えられている安心感とともに、人の役に立つ喜びや充実感を感じている。そんな様子がみてとれました。



## ～ 部門担当者よりひとこと ～

### たすけあい

介護保険や障がい福祉サービスに該当されない方へ家事援助や入院中の洗濯など55名の経験豊かなヘルパーが対応します。子育て支援では、乳児から未就学児までの自宅保育を応援します。



杉本

### 居宅介護支援

平成27年度の介護保険制度改正にむけて速やかに対応できる体制を目指し、利用者がより良い生活を送ることができるよう本人・家族・サービス部門との連携を密に行っていきます。



澤田

### 訪問介護

ケアマネジャー部門と連携を密にとります。利用者が安心して質の高いサービスが受けられるように、引き続きヘルパー研修の充実、個別研修に努めます。



杉本

### デイサービスりんりん

家庭的な雰囲気の中で、利用者の残存機能を維持向上させるため、経験豊富な職員が施設内での居場所・役割を見出し、リハビリにつなげていきます。



竹内

### デイサービスやなべ

利用一人ひとりの多様なニーズや価値観に合わせたきめ細やかなサービスが提供できるように、職員のスキルアップを目指します。



田中

### 障がい福祉

夕方、土日の利用者の希望に応えられるように人材確保に力を入れていきます。「自分で決める」自立支援を進めます。またグループ活動の機会をふやしていきます。



二村

### 受託事業

- ・ 妊産婦家庭サポート事業 (半田市より)
- ・ 養育支援訪問事業 (半田市より)
- ・ 放課後児童健全育成 (りんごクラブ) (半田市より)
- ・ おでかけサロン (半田市より)
- ・ 昭和喫茶 (瑞光の里・第2瑞光の里より)



りんごクラブ担当  
村上

### りんりん20周年記念イベント

## “ズーラシアンブラス” 音楽会

平成26年11月2日(日) 雁宿ホール 開演13時

小さな子供からひいちゃんまで楽しめるクラシックコンサートです。(有料)

## 新理事のことば

このたび、理事の大役を務めさせていただきととなりました。みんなの意見を積極的に取り入れ、「あったらいいなあ」を実現していきたいという代表のご意向を、お手伝いできる機会を与えていただけたこと感謝しています。微力ではありませんが、私なりにりんりんの発展に寄与できるよう努めていきたいと思っています。私事ではありますが、4月から高山に居を移しています。住み始めて日は浅いですがとてもやさしい町であると感じています。見ず知らずの方に少しお聞きするだけで周りの方々にも声をかけて頂けたり、先日も犬の散歩を夜遅くしておりますと、後ろから「今晩は、ご苦労様」と声をかけられました。なんと高校生に言われたのです。思わず立ち止まってしまったのですが、この町ではこの様な行為が普通のような気がします。この地からいろいろ発信していきますので、どうぞよろしくご挨拶致します。



理事 山田 康恵

## 勤続10年表彰式



地元から離れたことのない私は、りんりんのヘルパーとしてお会いした多くの方から、大陸での暮らし体験談、若き日の思い出話など、それぞれの思い、感性の違い、生き方などを学ばせていただきました。りんりんの皆さんたちにご指導を頂き、助けられての10年。振り返れば感謝感謝。ありがとうございました。

中須賀れい子

会社勤めの頃に、年老いた両親のためとヘルパーの資格を取得しました。数年後りんりんと出会い、会員になりました。新しいことを学びながらの援助で失敗もありましたが、困った時にはいつも先輩方に助けて頂き、長く続ける事が出来て感謝しています。介護福祉士資格も取得し自信もつきました。これからは、何事にも前向きに誇りを持って、利用者さんと関わっていきたく思います。

鈴木 ちよ

りんりんの旧事務所の玄関をくぐったのがついこの間のこのように思えるくらい、あつという間の10年でした。ハローワークの求人票の記載は[60名のスタッフ在籍] この建物の中に60名？が仕事をしているんだー 今では笑い話である。“あつという間に思えるのは、充実しているから……”というコメントをTVで言っていた。末永くお付き合いよろしくご挨拶いたします。

永島喜美子